

カナダ「マウントアリソン大学」での シニア夏季語学研修

清水 収 (横浜市)

期 間 : 2010年6月19日～7月9日 21日間

参加者 : 9名

リーダー : 山地紘子

費 用 : カナダ \$ 2,350

授業、宿泊、食事、課外活動、小旅行等
他に宿泊旅行費、航空費

研修先 : マウントアリソン大学

(カナダ東部サックビル)

宿泊先 : 学生寮 (大学敷地内) ・ ・ 設備良好

食 事 : (学生と一緒に、平日3食、土日2食)



学生食堂

研修プログラム

午前 9:00～12:00 大学内教室で授業 (英語)

午後 14:00～夕刻

キャンパス内外で次のような課外活動

現地人宅訪問、大農場見学、現地人と農園作業・
バーベキュー、陶器・水彩画の実習、ピクニック、
美術館・公園巡り、カヌー・テニス・ダンス実習、
アップルパイ作り、講話 (地球汚染) 受講、
日本茶道 (ティーセレモニー) 紹介実演、など

週末の活動 (近郊名所巡り)

- * 州都ハリファックス、世界文化遺産の美しい
港町ルーネンバーグへ (2泊3日)
- * 赤毛のアンで有名なプリンスエドワード島
(日帰り)
- * ロブスター世界一の港町シェディアック
(日帰り)

大学の沿革と環境

当大学はカナダ東部ニューブランズウィック州サックビルにあり、古い歴史をもつカナダ超難関校の1つである。世界各地から留学生を受け入れ、このたび初

のシニア語学研修留学生として私達日本人を受け入れてくれた。広く静かな敷地に赤レンガ造りの建物が映え名門校の風格が漂う。

学校裏の湿地には、なんとホテルが無い私達を大感動させた。また、近くには100年絶えることなく冷たい水が湧き出る井戸があり私達は毎日飲用した。別天地の環境である。



マウントアリソン大学校舎

さらにサックビルの街は大学生を除き人口3,000人余り、大学関係者と芸術家、広い邸宅が並ぶ美しい田舎町、常に歩行者優先、交通信号は1カ所だけと、おとぎ話のような町です。

英語授業

担当の女性教師は大変有能で、私達の能力差に配慮、豊かな表情とゼスチャーで退屈させない。日本語一切不可でも楽しく集中できた。各自、前日の体験談を発表、カナダの知識と実践的日常生活などを学習した。もう少し時間が欲しかったのが私の本音。



真剣に学んだ教室

課外活動

紙面の都合で印象に残ったものを報告。

現地人宅訪問では、手作りの料理をいただきながら、ありのままの日常生活と生活価値観を見聞できバックツアーでは味わえない貴重な体験ができました。庭木に小鳥の巣箱をセットしたり、隣家とは境を作らず、近隣との友好を大切にしている心の豊かさが印象的だった。

大農場見学では、まず広大なイチゴ畑に驚く。甘いイチゴを摘みとり食べ放題で、お土産として各自寮に持ち帰る。日本のイチゴと違いビニールハウスでなく太陽いっぱい天然栽培のためいつまでも新鮮で腐らない。羨ましい限りだ。



見渡す限りのイチゴ畑

次にメイプルシロップの農場へ。100年以上のメイプルの巨木から樹液を吸いとり、昔からの手法でシロップ作りをするのを見る。帰路、この農場主宅でいただいた作りたてのメイプルシロップクリームをパンに塗りアフタヌーンティーを楽しむ。絶品！

生涯忘れえぬ味、日本に持ち帰れず残念。

一望千里大草原に行く**ピクニック**、大地に横たわり新鮮な空気を体一杯吸い込む。空へ届けとヤッホーと叫ぶ。地元の方々との**バーベキュー**では思いもかけぬジャグジーバスで露天足湯を体験、片言英語で話が弾む。こういうときは自然と英語が口から出てくるので不思議だ。



茶道の紹介・実演

陶器作り・**水彩画**は私達はほとんどが初体験であったが、素人の怖さで傑作完成、お褒めの言葉が照れくさかった。

中条さんが持参した茶道具で**日本茶道**（ティーセレモニー）の紹介と実演を行い、多数の人が参加され大好評、可愛い赤ちゃんが神妙に日本茶をすすする仕草がなんとも微笑ましかった。両国間の文化交流の一助になれたのではと自負している。

近郊名所巡り

赤毛の안의プリンスエドワード島へ（日帰り）

本土からの長い橋を車で渡り、日本女性憧れのプリンスエドワード島へ到着。小豆島ぐらいの島と想像していたら四国と同じぐらいと知ってびっくり。

先ず「アン記念館」で안의少女時代の人形姿に扮し記念撮影をする。ぐっと若返り元少年・少女全員は大はしゃぎ。その後、生家を訪問したが、海を臨む大草原の中にポツーンと小さい家が建っていると想像していたので付近が観光化されていてちょっとがっかりした。



赤毛の안의人形姿に扮して



안의生家（Green Gable）

州都ハリファックスから世界文化遺産の

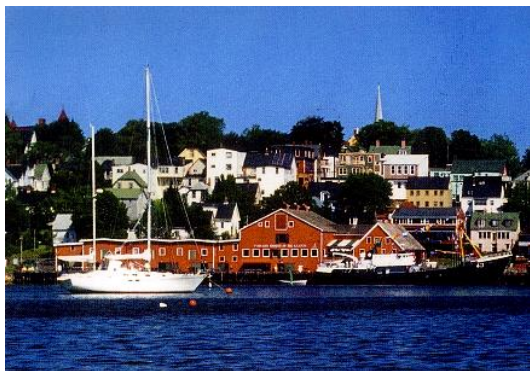
美しい港町ルーネンバーグへ（2泊3日）

ノバスコシアの州都ハリファックスは、英国人が初めてカナダで築いた町。古い要塞、世界第2の広い港湾で活気があり、岸壁の洒落たレストランで行き交う船を眺めながらシーフードを満喫した。

宿泊はマウントアリソン大学の姉妹校の学生寮。

翌朝は活気ある朝市で軽食後、ルーネンバーグへ。この町は300年前に築かれ、歴史的に貴重な建造物が保存されていて港から小高い丘にかけカラフルで美しい小さな家並みが続く。これらを含め街全体が世界文化遺産に登録されている。私達の宿から海越えに眺めるこの美しい夢のような景色に我を忘れる。

今回の旅で私が一番印象に残った町である。



世界遺産の美しい港町ルーネンバーグ

翌朝、小鳥の声で目を覚ます。そしてお目当てのホエールウォッチングへ。私は船に弱いので不参加。皆さん決定的な瞬間に遭遇でき大興奮。最後は美しい灯台のあるペギーコープに立ち寄り一路サクスピルへ。

ハイウェイを走り前方に雄大で美しい夕焼けが広がる。夜10時を過ぎても北側半分は消えることなく映え続ける。この時期北極地方は夜がない白夜が3カ月も続くと聞いていたので、この貴重な光景は白夜の南限かと想像し感動した。

ロブスター世界一の港町シェディアックへ(日帰り)

研修もあとわずか、世界一大きく新鮮なロブスターを食べるためにシェディアックの町へ行く。

老舗の“Lobster Deck”で、なんと50cmもの特大ロブスターを堪能する。さすがに普段はお元気な奥様方もこの時ばかりは一瞬静寂。

因みに、地元の人達は美味しい“みそ”の部分は捨ててしまうとのこと。もったいない！



50cmのロブスターに全員かぶりつく

お別れ夕食会 (Farewell Party)

最終日、特別室でお別れパーティーを開いていただき、研修責任者から「研修修了証書」を一人一人に授与していただく。各自面映い表情で拝受し大感激。別れを惜しみつつ終了！



研修修了証書

終わりに

私達が滞在したニューブランズウィック、ノバスコシア、プリンスエドワードの各州はカナダ北東部で大西洋に接し、総称して“アトランティックカナダ”と呼ばれ、初めて欧州人が入植したカナダ発祥の地である。寒冷であるが日中は温暖のため豊かな自然が手つかずに残り、その美しさは驚嘆の一言に尽きる。田舎の小径、ハイウェイをかなりドライブしたが道の両側の風景は美しい絵葉書が立ち並ぶ中を走り抜けていく感じだった。この美しさをいつまでも残してほしい。

今回、参加者の中で男性は私1人だったので、自由時間は1人で冒険を試みた。海外初の床屋、夕方6時から歩いて20分のゴルフ場でハーフプレー、銀行、パブ、近所の老人ホームでベンチの老人とお話などなど。皆さんとても親切でフレンドリー。思いもかけない温かい応対をしていただき、カナダ(人)は優しく心が広いと好印象を持った。紙面の都合で詳しく紹介できず残念ですが帰国したら海外からの来訪者に優しく接し、良い日本の印象を持ってもらうよう努力せねばと決心した。

私は75歳で今年3月入会、最初は本研修への参加に大変ちゅうちょしましたが参加して本当によかった。何度か海外旅行をしましたが、今回の旅が一番の思い出となるでしょう。WSCの皆さんのお陰です。

私達のお世話をしていただいた3人の女性職員さんと関係者の方々、いつも笑顔で優しく接してくれた若い学生さん達、そして不慣れな私たちを気遣ってくださったリーダーの山地さん、島田さん本当にありがとうございました。

書面をかり改めてお礼、感謝申し上げます。